

A close-up photograph of a yellow flower with numerous long, thin stamens and a few petals visible at the bottom. The background is dark, and the flower is the central focus.

No. 4

公益財団法人東洋哲学研究所
NEWSLETTER

目次

2・4「東洋哲学研究所の日」に寄せて-----	2-3
第 32 回学術大会-----	4-5
ニュース	
タイ・世界仏教徒大学と学術交流協定／中国・敦煌研究院を表敬訪問-----	6
「法華経——平和と共生のメッセージ」展-----	7-11
「仏教経典：世界の精神遺産」展-----	12
特別講演会-----	13
連続公開講演会「生命倫理と宗教」-----	14-15
各種レクチャー／八王子学園都市大学 いちよう塾-----	16
法華経写本シリーズ-----	17
出版物-----	18-20

「IOP NEWSLETTER」No.4 では、公益財団法人東洋哲学研究所が 2017 年に推進してきた「研究・調査」「国際学術交流」「研究成果公開」の各事業に関するニュースやトピックスを紹介
します。※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです

2・4「東洋哲学研究所の日」に寄せて



ブルガリア科学アカデミー会員
国立ソフィア大学教授

アクシニア・D・ジュロヴァ 博士

東洋哲学研究所の設立の淵源は、1961年（昭和36年）2月4日に、インドのブッダガヤを訪問した創立者・池田大作 SGI（創価学会インタナショナル）会長が、東洋の英知を探究・発信する学術機関の設立を構想したことにある。当研究所では、同日を2・4「東洋哲学研究所の日」として、毎年、記念の集いを開催してきた。2018年の2月4日には、ブルガリア科学アカデミー会員で、国立ソフィア大学教授のアクシニア・D・ジュロヴァ博士から、祝賀のメッセージが寄せられた（**要旨を別掲**）。博士とSGI会長は、1982年より語らいを開始し、対談集『美しき獅子の魂 日本とブルガリア』（当研究所刊、1999年）として結実。2017年には新しい対談となる「大いなる人間復興への目覚め」を、当研究所の学術誌『東洋学術研究』（第56巻第1号・第2号）に発表している。

2018年が訪れる直前、貴研究所の創立者である池田 SGI 会長との対談「大いなる人間復興への目覚め」が収録された『東洋学術研究』を受け取りました。このことは、どれほど私を喜ばせたことでしょうか。

私の人生における大きな瞬間であり運命的な機会となったのは、1982年のSGI会長との出会いです。そして、その時から数年来にわたり現代の諸問題について意見を交換する機会を得たことです。SGI会長との精神的な交流の結果として、対談集『美しき獅子の魂 日本とブルガリア』が貴研究所の努力によって出版され、そしてこのほど、『東洋学術研究』に新たな対談が掲載されたことに、心から感謝をしたいと思います。

1982年、運命は卓越した人——SGI会長との出会いを、私にもたらしました。その前年の5月、SGI会長は、ブルガリアを訪問され、ソフィア大学名誉博士号を受章されていました。1982年4月、私はSGI会長と出会いました。その時、私はSGI会長を詳しくは存じ上げておりませんでした。私を案内した元駐日ブルガリア大使であるトドル・ディチェフ氏が、SGI会長とアーノルド・J・トインビー、アンドレ・マルロー、アウレリオ・ペツチェイらとの対談集を私に手渡してくれました。それらを拝見していた私は、会見に臨んだ際に、SGI会長に直接的に迫っていくことができたのです。出会いから3カ月が経った後、ブルガリアに戻っていた私に、対談集についての依頼が届きました。私は、その時には既にSGI会長と

世界の識者たちとの対談集を熟読していましたから、会見の重大さを強く感じるとともに、対談の提案を引き受ける責任を理解したのです。

このように 1982 年の出会いから書簡による対話が始まり、それはその後、10 数年に渡って続きました。その過程のなかで、しばしば私は、あるラテン語のことわざを思い起こしました。「アウディア・トゥル・エト・アルテラ・パルス」（他者の声に耳を傾けよ）——利益とは、たとえ語らいでの視点がずれ違ったとしても、「他者」の意見を聴きながら、真理を見つけるということです。

私たちの対談集は、1999 年に日本語版、そして 2000 年にブルガリア語版が発刊されるに至りました。この対談集は、わが国で再版がなされ、さらには、『21 世紀の警鐘の洞察』（トインビー、ペッチェイ、ジュロヴァ対談を収録）として、出版されたのです。これは偶然ではありませんでした。対談で論じたグローバル化に伴う弊害などの諸問題の一部分が、実際に起きたのです。

今日、EU の経済的な課題解決の方途は開かれましたが、目指していた連帯の実現が困難となり、それぞれが生存するという現実的な選択を余儀なくされています。こうした EU の地政学的な挑戦などの諸問題について、SGI 会長は、今回の対談で論じるという新たなチャンスを私に与えてくださったのです。SGI 会長のような責任ある人格と出会うという運命、またその方と世界の諸問題について分かち合うということがどれほどの幸運であるかを皆さま方



ブルガリア・ソフィア大学で開催された共同シンポジウム
「東洋と西洋の文明間対話」（2011 年 11 月）

は理解してください。そして対談を実現した貴研究所の方々との交流も、私にとっての幸運でありました。それだけではありません。貴研究所とソフィア大学付属エレナ・イヴァン・ドウィチエフ記念スラヴ・ビザンチン研究所はこの数十年来、緊密な交流を続けることができました。その結果として、2011 年に、貴研究所の創立構想 50 周年と私たちの研究所の創立 25 周年の佳節を迎え、共同シンポジウムを開催することができたのです。この年は、日本が最も深刻な災害に襲われた年でした。

日本の皆さまが、大震災から復興しながら、さらに強く、賢明に生き抜いているという挑戦を、私は忘れないでしょう。こうした経験は、より良い未来と希望の為に、私たちすべての人にとって重要な経験であり、それを分かち合う必要があると思います。そして、そうしたことに貢献する為に、東洋哲学研究所の存在が期待されていると私は信じるのです。

第 32 回学術大会

統一テーマ 「人類的課題と仏教」



東洋哲学研究所の研究員が研究成果を発表する第 32 回学術大会が 3 月 19、20 日の 2 日間にわたって開催された（会場：19 日＝創価大学／20 日＝東洋哲学研究所）。

研究所創立 55 周年の節目を飾る学術大会には、国内外の研究員・委嘱研究員らが集い、法華經研究をはじめ、宗教間・文明間対話、平和と人権、環境問題などの課題克服をテーマに活発な発表が行われた。

19 日午後のシンポジウム（統一テーマ「人類的課題と仏教」）には、タイ王国・世界仏教徒大学より、ノーラニット・セータブット学長とパッタラポーン・シリカンチャナ副学長を招聘。同大学は、高度な仏教研究の推進を目的として設立された学術機関で、2002 年より東洋哲学研究所と交流を続けている。

ノーラニット学長は「仏教と平和」をテーマに、大要、以下のような講演を行った。

今日の世界は、グローバル化によって、人々が簡単に知り合えるようになりました。しかし、そうした結びつきの一方で、戦争にまで発展してしまう紛争や対立がなぜ、起こってしまうのでしょうか。

現在の世界は、シリア紛争、アフガニスタン紛争、ウクライナ紛争といった、さまざまな形で多発する争いが起こっています。エスカレートしていくこれらの争いは、人間が引き起こしてきたのであり、未だに絶えることはありません。紛争は、深刻な状況となる前に止めなければならないのです。では、どうしたら止めることができるのか。私は、仏教徒として、しばしば釈尊の教えに思いを馳せます。

その一つが「四諦」です。これを応用することで、

平和を構築できるのではないかと思います。戦争の苦しみが「苦諦」であるならば、その根本原因を探り、滅する実践をしていかなければなりません。その実践によってはじめて、「道諦」となり、苦から離れることができるのです。

戦争は人間によってもたらされるものです。言葉を換えれば、指導者によって始まるのです。指導者が、利害や感情によって善の判断を行う眼が曇らないようにしなければなりません。人類的課題の解決には、指導者が平和を築く大きな責任を担い、「柔和」「正直」等の十の徳を備えていく必要があります。それによって、私たちは平和の道を開いていくことが可能となるのです。

またパツラポーン副学長が、「仏教に見る環境保全の精神と現代タイの生活」と題して発表を。東洋哲学研究所の山本修一主任研究員による「自然破壊に対する大乘仏教の視点——自然の価値評価の観点から——」、大島京子研究員による「核兵器なき未来へ——仏教の平和理念からの考察——」の発表と質疑応答が行われた。

シンポジウムに先立つ 19 日午前と、20 日には研究発表大会が行われた。



シンポジウムで講演するノーラニット・セータブット博士



講演するパツラポーン・シリカンチャナ博士

研究発表大会 第1日目（3月19日）

- トマス・アクィナスにおける悪の原因と宇宙の秩序（山崎達也 研究員）
- 戦後日本の文化変動と宗教運動（大西克明 研究員）
- 最近の中東イスラームにおける諸問題の要因と将来の展望（岩木秀樹 委嘱研究員）
- アラブの詩：人間革命の理想（フランチェスカ・コツラオ 海外研究員）

研究発表大会 第2日目（3月20日）

- 人工知能と信仰（前川健一 研究員）
- パルミラ王国の興亡の要因について（山田勝久 委嘱研究員）
- 「わたし」の意識の存立基盤とその意識内容を推測操作する技術について（根本正史 委嘱研究員）
- 日本国民の自殺の動向——公衆衛生、特に精神・行動衛生の観点からの考察（山口力 委嘱研究員）
- 学校・園における集団複雑性と自己複雑性：共生実践課題の定位のための図式（戸田有一 委嘱研究員）
- 「ダイアナの馬」（牧野信一）と「ロリータ」（ウラジーミル・ナボコフの）比較考察～ダイアナ・モチーフの系譜として～（寒河江光徳 委嘱研究員）

タイ王国・世界仏教徒大学と東洋哲学研究所との学術交流協定調印式が5月3日、タイ・バンコク近郊ノンタブリー県のタイ創価学会本部で行われた。これには、同大学評議会のノーラニット・セータブット議長、東洋哲学研究所の桐ヶ谷章所長らが出席した（写真）。

東洋哲学研究所の学術交流協定の締結機関は、オックスフォード仏教学研究、マラヤ大学文明間対話センター、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミー等に続き10機関目となる。

2017年3月に開催した共同シンポジウム「人類的課題と仏教」などを通して、今後の研究推進



を約し合った両機関は、今回の締結により、さらなる交流が望まれている。

調印式では、桐ヶ谷所長とともに交流協定書に署名をしたノーラニット議長が、「仏教が持つ智慧を探究し、共に力を合わせて進みたい」と抱負を語った。

中国・敦煌研究院を表敬訪問



東洋哲学研究所の訪問団が7月27・28日、中国・敦煌研究院を表敬訪問した（写真）。

同研究院と東洋哲学研究所は、長年に渡り交流を続け、なかでも常書鴻名誉院長、段文傑

初代院長と創立者の池田 SGI 会長は、深い友誼で結ばれてきた。同研究院は、SGI 会長の敦煌文物の保護・紹介等を讃えて「名誉研究員」証を授章。東洋哲学研究所が企画・制作する「法華経 — 平和と共生のメッセージ」展の後援団体として、様々な資料等の提供を行ってきた。

訪問団を迎えた同研究院の王旭東院長は、これまでの東洋哲学研究所との交流に対して深い感謝を述べるとともに、両機関の一層の発展を約し合った。さらに、法華経展について、今後、同研究院が共催団体として展示会の成功に尽力することが確認された。

世界・16カ国地域
鑑賞者数80万人

法華経展

「法華経——平和と共生のメッセージ」展は、東洋哲学研究所が企画・制作する展示会で、2006 年からスタートした。同展は、研究所が進める法華経研究の成果を広く公開するとともに、その教えの伝播の歴史と経典の内容を分かり易く紹介するものである。

ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、中国・敦煌研究院、インド文化国際アカデミーの全面的な協力により、法華経写本の画像および複製の公開や敦煌莫高窟の再現、仏教文物・各種資料の提供なども行われている。その出品物には、8 世紀書写とされるペトロフスキー法華経写本や1～2 世紀書写のガンダーラ語の法句経の複製が含まれる。また、敦煌莫高窟の壁画に描かれた飛天の模写絵や、敦煌文書の法華経（複製）をはじめ、経典書写の際に使用された鉄筆や白樺の樹皮の複製品など、展示全体で約 160 点に及ぶ文物が出展されている。

研究所では、同展を解説した『ガイドブック法華経展——平和と共生のメッセージ——』を編纂し、日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の 4 言語で刊行している。

展示会は、仏教発祥の地であるインド、ネパールをはじめ、マレーシア、韓国等のアジア、欧州のイギリス、スペイン、南米のブラジル、アルゼンチンなどで開催。国内では東京、兵庫、福岡、北海道の 4 都市で行われ、世界 16 カ国・地域で 80 万人以上が鑑賞に訪れている。





「法華経——平和と共生のメッセージ」展

東南アジアの仏教国であるタイで、「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開幕式が5月3日、バンコク近郊ノンタブリー県のタイ創価学会本部で行われた。同展は、東洋哲学研究所が企画・制作し、タイ文化省、世界仏教徒大学、タイ創価学会が共催して行われた。

展示会には、約160点を出品。仏教流伝の歴史を紹介するコーナーでは、パネルとともに映像を使用し、大乘仏教がインド、西域から中国、韓・朝鮮半島、日本へと伝わっていった事実だけでなく、東南アジアのタイ、カンボジア、インドネシアなどにも広がっていることを紹介した。

また、ペトロフスキー写本、ギルギット写本などの法華経写本（複製）をはじめ、パーリ語の経典写本（複製）も出展。世界の学術機関から創立者・池田SGI会長に贈られた文物などを公開した。敦煌莫高窟のコーナーでは、「法華経変」が描かれた第85窟や、敦煌莫高窟のシンボルである九層楼を再現するなど、“目で見る法華経”にふさわしいレイアウト・デザインを行った。



来賓とともに盛大に開幕した法華経展

開幕式には、ウィーラ・ロトポッチャナラット文化大臣、ノーラニット・セータブット世界仏教徒大学評議会議長、ノンタブリー県のニシット・ジャンソムウォン知事ら来賓、タイ創価学会の代表など 650 人が出席。盛大にテープカットを行った。開幕式典・展示会の模様は、国营放送 NBT、TV3、TV5 をはじめ、タイポスト、マティション紙、デイリーニュース、クルンテープ・トゥラキット、サヤム・トゥラキットなどが相次いで報道。会期中、12 万 5 千人が来場した。



ガイドの解説を熱心に聞く児童たち



上座部仏教の僧侶も鑑賞に

来賓の声

○ウィーラ文化大臣（タイ文化省）

「法華経——平和と共生のメッセージ」展に、主催者として出席できることは、大いなる喜びであります。タイ文化省の主たる責務の一つは、宗教、芸術、そして文化を保護・継承し、発展させていくことです。世界各国で開催されてきた本展を、タイ創価学会と共催する意義が、ここにあります。

本展は、仏教の經典である「法華経」に説かれる人間主義の思想を学び、理解を深めていけるものです。さらに、宗教の保護や共存と調和の美しい文化を広めゆくことを可能にします。タイ国民にとって、大変に良い機会であります。善良な社会をつくり、人々に徳を持たせ、調和と統合をもたらすことでしょう。それは、プラユット・チャオチャ首相が提唱するタイ王国の今後のビジョンとも一致するものです。

タイ社会に“善と美”を威風堂々と広げるタイ創価学会をはじめ、各共催団体の皆さまと共に、文化省の名において、本展が大成功されますことをお祈り申し上げます。

- ◆企 画・制 作：東洋哲学研究所
- ◆主 催：東洋哲学研究所、タイ文化省、
世界仏教徒大学、タイ創価学会
- ◆後 援：ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、
敦煌研究院、インド文化国際アカデミー
- ◆会 場：タイ創価学会本部
- ◆開催日：2017 年 5 月 3 日～6 月 28 日

タイ展



「法華経——平和と共生のメッセージ」展

シンガポールのアート・ハウス（旧国会議事堂）で「法華経——平和と共生のメッセージ」展の開幕式が10月1日、盛大に開催された。世界16カ国・地域目の開催となる同展は、東洋哲学研究所とともに、中国・敦煌研究院とシンガポール創価学会（SSA）が主催した。これまで後援として展示会に協力してきた同研究院が、今回より共催団体となったことにより、展示文物・内容がさらに充実。インド文化国際アカデミー、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所も引き続き後援し、約150点に及ぶ展示品が公開された。

開幕式には、主賓として文化・社会・青年省の馬炎慶政務官、敦煌研究院の張元林主任、趙袖栄研究員、SSAをはじめ、シンガポールの政財界、教育・学術界から250人が出席した。同国は、中華系、マレー系、インド系など多く民族が共生し、宗教も仏教だけでなく、イスラーム、キリスト教、道教、ヒンドゥーなどさまざまな信仰が行われている。それに伴って、複数の言語も使用されていることから、展示パネルを英語と中国語による2言語表記で作成。また、多様な言語の經典の展示や、敦煌研究院の尽力を得て進めた敦煌コーナーの充実を図った。同コーナーの入り口には、敦煌莫高窟のシンボルである九層楼を製作。法華経の教え全体を描いた「法華経変」がある第85窟を再現した。また同展は好評により、SSA本部でも開催され、累計6万2千人が鑑賞に訪れた。



会場となったアート・ハウス（旧国会議事堂）



開幕式の席上、敦煌研究院より敦煌・莫高窟の壁画の模写絵が展示会に贈られた



敦煌・莫高窟の雰囲気再現した壁面に浮かび上がる「法華經の七譬」のパネルを丹念に鑑賞する来賓



児童・生徒も多数来場

来賓の声

○馬炎慶 政務官（文化・社会・青年省）

平和と共生が、多民族・多宗教のシンガポールで永遠に広がって欲しいと思います。そして、法華経展のメッセージが、シンガポール、世界へと広がっていくことを念願しています。

○郭建超 所長（シンガポール経営大学
ウィー・キムウィー・センター）

法華経展は、大変にリアルで、仏教流伝の歴史が大変に分かり易く表現されています。そして、その重要なメッセージを、人々に伝え、智慧を出していくための展示会だと思います。法華経の精神性を、どう伝えていくのか。社会全体にどう広げていけるかが大切だと思います。

法華経をめぐる交流を紹介するコーナーを見ると、法華経の智慧を理解する方途が膨大にあることが分かります。こうした研究は人類に普遍の価値をもたらすものであり、今後も続けていくべきと思います。法華経の平和や調和の心を紹介する同展は、私たちを「共生の精神」へと目覚めさせてくれるのです。

- ◆企 画・制 作：東洋哲学研究所
- ◆主 催：東洋哲学研究所、敦煌研究院、シンガポール創価学会（SSA）
- ◆後 援：ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、敦煌研究院、インド文化国際アカデミー
- ◆会 場：アート・ハウス、SSA 本部
- ◆開催日：2017年10月1日～25日、11月1日～18日



「仏教經典：世界の精神遺産」展

パリ・ユネスコで開催された「仏教經典：世界の精神遺産」展の巡回展であるレンヌ展が 10 月 21 日、フランス西部のレンヌ仏教文化センターで開幕した。

同展は「法華經——平和と共生のメッセージ」展の内容を、さらに仏教全体に広げたもので、フランス・仏教学研究所の協力によってパネル制作なども行われた。2016 年 4 月に、パリのユネスコ本部で開催された際には、7000 人を超える鑑賞者が訪れ、後援のロシア科学アカデミー東洋古文書研究所から、ペトロフスキー法華經写本をはじめ、同研究所が所蔵するオリジナルの写本 26 点が出品された。また、同展を記念するシンポジウム「仏教經典の主な教えの普及と受容」も行われ、パリ・カトリック学院のデニス・ジラ名誉教授、仏教学研究所のドミニク・トロティニオン所長、インド文化国際アカデミーのロケッシュ・チャンドラ理事長、東洋古文書研究所のイリーナ・ポポワ所長らが発表を行った。

レンヌ展の会場となった共催団体のレンヌ仏教文化センターは「文化や宗教実践を通して、市民に仏教と触れ合う機会を提供し、西洋と東洋の交流を促進する」ことを目的に 2011 年に開設。仏教団体が宗教実践の活動、瞑想コースなどを実施している。

21 日には、開幕を記念したシンポジウム「仏教によって伝えられた価値」が開催された。ここでは、パム・クアン・レ氏が「ベトナム仏教について」、仏教学研究所のトロティニオン所長が「經典について」、東洋哲学研究所のベルトラン・ロシニョール海外研究員が「法華經について」の発表を行った。

- ◆企画・制作：東洋哲学研究所
- ◆主催：レンヌ仏教文化センター、東洋哲学研究所、フランス創価文化協会
- ◆後援：中国・敦煌研究院、ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、インド文化国際アカデミー
- ◆協力：仏教学研究所
- ◆会場：レンヌ仏教文化センター
- ◆開催日：2017 年 10 月 21 日～29 日



特別講演会「東アジアの平和の連帯を目指して」



イ ス ソン 李 壽成 韓国元首相（ソウル大学元総長）

李壽成元首相は、韓国の哲人政治家として知られ、同国首相、ソウル大学総長などを歴任。法学博士であり、刑法や刑事政策等についての著作も多い。1999年に池田SGI会長との会見に臨んだ際には、文化、教育、平和などについて語らいを行った。また、2016年9月から12月に韓国・ソウルで開催された「法華経——平和と共生のメッセージ」展において、展示会の実行委員長を務めた。

「東アジアの平和の連帯を目指して」をテーマにした特別講演会は10月8日、東京・コンgresクエア中野で行われた。博士は、平和の礎となる生命について触れ、「人間が生命を持って生まれてくるのは奇跡です。一人ひとりが、かけがえのない存在であり、尊い存在です」と強調した。そして、法華経展を通して、「法華経は、一人ひとりが仏性を持った存在であると説いています。自分だけが特別なではなく、人間全てが貴重な存在です。ですから、人間は誰に対しても傲慢になってはなりません。目の前の人に謙虚であらねばならないのです」と語った。

さらに、日本による韓国併合の歴史に言及。「戦争になれば、人は人と殺し合うのです。本来、韓国と日本は、兄弟の国ですが、歴史を見れば、様々なことがありました。一人ひとりが過去に起こった事実を知らなければなりません。そして、戦争を簡単に考えてはいけません」と述べ、「韓国・中国・日本の関係は今、あまり良いものではありませんが、SGI会長は、韓国・中国で多くの顕彰を受けています。世界でこういう方はいないと思います。こうした方を尊敬し、希望の連帯を築いていく潮流が世界へと広がってほしいと願っています」と望んだ。

連続公開講演会 統一テーマ

「生命倫理と宗教」

- ◆講 師：青柳 かおる氏（新潟大学准教授）
- ◆開催日：2017 年 10 月 31 日
- ◆会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）
- ◆テ ー マ：イスラームにおける生命倫理の諸問題



青柳氏は、宗教学、イスラーム思想史が専門領域であり、東洋哲学研究所では、2010 年にイスラームにおける婚姻論、2012 年に神秘主義の思想と実践についての 2 回の講演会に登壇。2017 年 4 月には、生命倫理に関する研究会で発表を行うなど交流を続けてきた。

講演では、生命の尊厳に関わるような医療技術については社会的な合意形成が必要であり、生命倫理の問題意識は、1960 年代の後半から 70 年代にかけて生じてきたものであると語った。そして、生命倫理とイスラームの概説を述べつつ、受精や中絶、生殖補助医療、終末医療などを踏まえて発表を行った。さらに、生命倫理の問題を取り上げる際に重要となるイスラームにおける死を論じ、イスラーム教徒にとって死とは恐れるものではなく、あくまでも通過点であると考え、それを乗り越えていくことを教えていると言及。皆がムハンマドを生き方のモデルとして捉え、イスラームの教えに基づいていくことが「良き生」であるとしていると強調した。

- ◆講 師：小原 克博氏（同志社大学教授、
同大学良心学研究センター長）
- ◆開催日：2017 年 11 月 14 日
- ◆会 場：梅田スカイビル（大阪市・北区）
- ◆テ ー マ：科学の進歩と生命をめぐる倫理的課題の過去・現在・
未来——キリスト教における議論を参考にしながら



小原氏は、キリスト教思想、宗教倫理学、一神教研究を専門領域としている。2001 年 11 月に開催した東洋哲学研究所の公開講演会で、「キリスト教世界の女性たち」をテーマに発表して以来、宗教間・文明間の対話を行ってきた。

小原氏は、生命倫理の基本概念を確認するとともに、アメリカやカトリック世界における中絶や人の始まりに関する議論を紹介。命を授かりものではなく、作り出すもの・選び出すものと考えているのが現代の生命観になっていると述べ、「制御したり、遺伝的選択をしたり、教育を施すという変える愛ではなく、授かりものとしての命であり、受け入れる愛というのが大切なのではないのでしょうか。そうした命を正しく評価する価値観・倫理を私たちの時代の中心に据えていく必要があると思います」と望んだ。

◆講 師：山本 典生氏（東洋哲学研究所委嘱研究員、
順天堂大学大学院准教授）

◆開催日：2017 年 11 月 30 日

◆会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）

◆テ ー マ：仏教と生命倫理



東洋哲学研究所の委嘱研究員である山本氏は、次世代ワクチンの開発やウィルスに関する研究を専門としている。当研究所では、論考集『大乘仏教の挑戦シリーズ』への執筆や、八王子学園都市大学いちょう塾で一般公開講座などを行ってきた。

「仏教と生命倫理」をテーマとした講演では、仏教の生命観を「十界論」「九識論」「縁起論」を通して紹介。全ての生命は、根源的な宇宙の生命を顕しているものであり、尊極の仏の生命であることに触れつつ、専門の見地から ES 細胞と iPS 細胞の「再生医療」についての解説を行った。また「受精胚は完全なヒトと同等か」などについて、仏教の視点から見た「人間の尊厳の手段化」「人のはじまり」「生命の多様性とアイデンティティー」の問題点を挙げ、「人間の生命が何かある目的のために手段化されてはいけないのは当然であるとともに、生命の萌芽としての尊厳性を考えていかなければなりません」と論究した。

◆講 師：池澤 優氏（東京大学大学院教授、
同大学死生学・応用倫理センター長）

◆開催日：2017 年 12 月 5 日

◆会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター（東京・新宿区）

◆テ ー マ：中国文化における生命倫理



「中国古代宗教」「祖先崇拜」「死生観」の研究を専門とするとともに、儒教に関する論考も数多く発表する池澤氏は、講演の冒頭、「生命倫理とは何か」を掲げて、その基本的な考え方を紹介。アメリカ、ドイツや日本での事例を比較として挙げながら、中国における生命倫理の現状について論究した。

氏は、「生命倫理の考え方は、アメリカで生まれました。それまでも存在していましたが、あくまでも医療倫理で、医療従事者のための倫理でした」と言及。また、ドイツ、日本の生命倫理について触れた後、中国の生命倫理について語り、中国では医療の治療の正当性を儒教の仁に求め、儒医という儒教倫理を体現する医療によって、伝統医学の医療倫理が確立されるとともに、仏教の不殺生の考え方が入っていると述べた。そして、「中国の生命倫理のキーワードは全体です。これは、儒教を継承しているかもしれませんが、それが何か重要です」と述べた。

各種レクチャー



◆イスラームレクチャー

2月21日「アヴィセンナの存在論と西洋中世」 山内志朗（慶應義塾大学教授）

◆「社会と宗教」レクチャー

4月8日「イスラームにおける生殖補助医療 ― シア派を中心に」

青柳かおる（新潟大学准教授）

7月22日「イランの生殖補助医療」

細谷幸子（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所フェロー）

9月26日「キリスト教と仏教の『智慧』表出の論理構造

― エックハルトの『私の花は実である』（シラ書）解釈を手がかりにして―

田島照久（早稲田大学教授）

10月14日「儒教的生命倫理について」

池澤優（東京大学大学院教授、同大学死生学・応用倫理センター長）

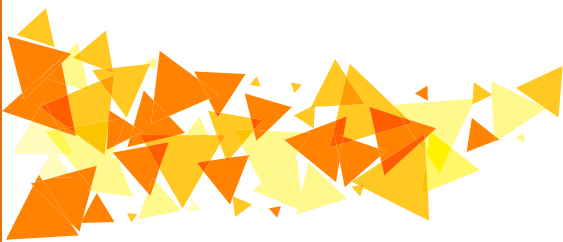
11月18日「生命倫理とキリスト教」

土井健司（関西学院大学教授）

12月21日「インド大乘仏教経典に見られる福祉・刑罰・戦争論

― 十善はどのように王政として展開されるのか―

杉木恒彦（広島大学准教授）



八王子学園都市大学

いちろう塾 一般公開講座

4月15日「後北条氏の古文書を読む ～戦国時代から江戸時代への八王子～」

小林央（東洋哲学研究所委嘱研究員）

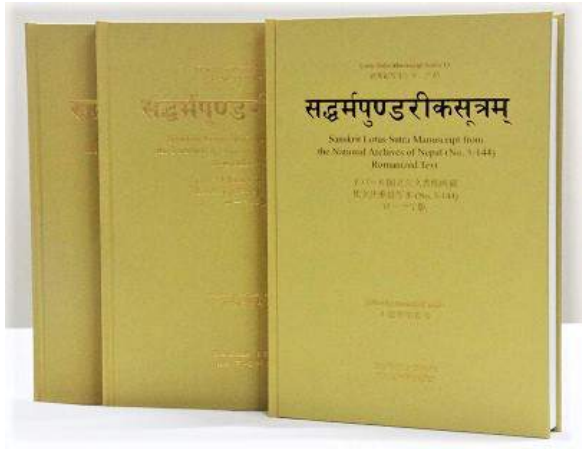
7月15日「“楽観主義”は、元気の秘訣！ ～ポジティブライフのすすめ～」

鉤治雄（東洋哲学研究所委嘱研究員）

8月12日「医者は何を説明するべき？ 患者は何を知るべき？ ～患者と医者の倫理学～」

蝶名林亮（東洋哲学研究所研究員）

『ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本 (No.5 - 144) ——ローマ字版』を刊行



東洋哲学研究所と創価学会は 1994 年以来、法華經写本を所蔵する世界の研究機関・研究者の協力を得て、「法華經写本シリーズ」の刊行を推進。各国に保存されてきた貴重な法華經写本を、カラー写真で撮影した「写真版」と、「読み」をローマ字化した「ローマ字版」で刊行し、世界の研究者に広く提供して、『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究に貢献してきた。

同シリーズは、ギルギット法華經写本やペトロフスキー法華經写本の写真版など、1997 年から 2017 年にかけて 17 点を発刊している（非売品）。

2017 年に刊行した『ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No. 5-144）——ローマ字版』（略号 N3）の最大の特徴は、ローマ字化した N3 のテキストに加えて、写本 N3 とギルギット系の 4 種の写本（7 世紀頃）および N3 以外のネパール系の 15 種の貝葉写本（11～13 世紀頃）を精査したことともに、N3 と諸写本のテキストとの関係を多変量解析の手法で分析し、その一致度の分析結果を表とグラフにして可視化したことである。

「法華經写本シリーズ」一覧

- 1 旅順博物館所蔵 梵文法華經断簡——写真版及びローマ字版
- 2-1 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No.4-21）——写真版
- 2-2 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No.4-21）——ローマ字版 1
- 2-3 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No.4-21）——ローマ字版 2
- 3 カーダリク出土 梵文法華經写本断簡
- 4 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本（Add.1682 および 1683）——写真版
- 5 東京大学総合図書館所蔵 梵文法華經写本（No.414）——ローマ字版
- 6 ロシア科学アカデミー東洋学研究所サントペトルブルク支部所蔵 西夏文「妙法蓮華經」——写真版（鳩摩羅什訳対照）
- 7 英国・アイルランド王立アジア協会所蔵 梵文法華經写本（No.6）——ローマ字版
- 8 パリ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本（No.2）——ローマ字版
- 9 大英図書館所蔵 梵文法華經写本（Or.2204）——写真版
- 10 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本（Add.1684）——ローマ字版
- 11 大英図書館所蔵 梵文法華經写本（Or.2204）——ローマ字版
- 12 インド国立公文書館所蔵 ギルギット法華經写本——写真版
- 13 ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所所蔵 梵文法華經写本（SI P/5 他）——写真版
- 14 コルカタ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本（No.4079）——ローマ字版
- 15 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No. 5-144）——ローマ字版

出版物

東洋学術研究 第56巻 第1号（通巻178号） 定価：1,238 円+税

主な内容

■連載・文明間対話

大いなる人間復興への目覚め（上）池田 大作／アクシニア・D・ジュロヴァ

■特集1 パリでの「仏教経典：世界の精神遺産」展

●「展示カタログ」掲載論考より

仏教経典——卓越した精神遺産

……………ドミニク・トロティニョン（パリ・仏教学研究所所長）
インド仏教における「経」とは

……………ナリニ・バルビール（パリ第3大学教授）
ウジェーヌ・ビュルヌフ、仏教研究の父

……………ドミニク・トロティニョン（パリ・仏教学研究所所長）
分かつことのできない二つの名前：敦煌とポール・ペリオ

……………ナタリー・モネ（フランス国立図書館主任学芸員）
莫高窟における法華経の図像表現

……………クリスチヌ・コントレル（パリ・カトリック学院）

中国語世界における経典

……………ジェローム・デュコール（パリ・仏教学研究所総裁）



東洋学術研究 第56巻 第2号（通巻179号） 定価：1,238 円+税

主な内容

■連載・文明間対話

大いなる人間復興への目覚め（下）池田 大作／アクシニア・D・ジュロヴァ

■特集「人類的課題と仏教」

（第32回学術大会／タイ・世界仏教徒大学との共同シンポジウムより）

仏教と平和

……………ノーラニット・セータブット（世界仏教徒大学学長）
核兵器なき未来へ——仏教の平和理念からの考察——

……………大島京子（東洋哲学研究所研究員）
仏教に見る環境保全の精神と現代タイの生活

……………パットラポーン・シリカンチャナ（世界仏教徒大学副学長）
自然破壊に対する大乘仏教の視点——自然の価値評価の観点から——

……………山本修一（東洋哲学研究所主任研究員）

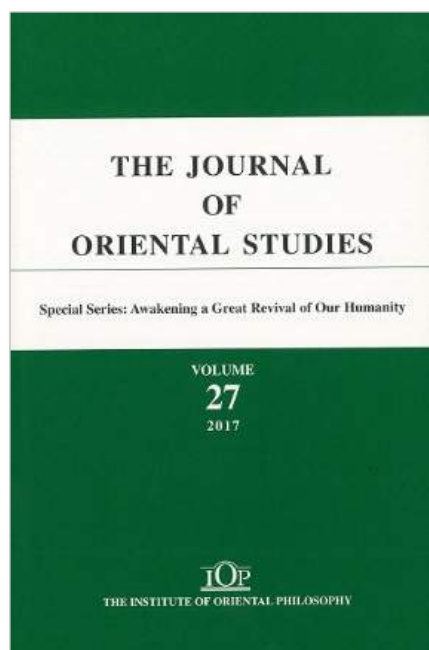
■「法華経——平和と共生のメッセージ」韓国展より

法華経——内なる海のごとく深き教え

……………ロケッシュ・チャンドラ（インド文化国際アカデミー理事長）



The Journal of Oriental Studies vol. 27 定価：2,000 円+税



Main Articles

Special Series:

Dialogue: Awakening a Great Revival of Our Humanity (1)

.....Axinia D. Djourova / Daisaku Ikeda

Feature 1: Buddhist Sūtras—A Universal Spiritual Heritage From the Catalogue of Exhibition

Buddhist Sūtras—An Extraordinary Spiritual Heritage•Dominique Trotignon

What a Buddhist Sūtra is in India.....Nalini Balbir

Two Inseparable Names, Dunhuang and Paul Pelliot.....Nathalie Monnet

The Presentation of the Lotus Sūtra in the Mogao Caves.....Christine Kontler

From the Commemorating Symposium

Perspectives on Parables of the Lotus and the Gospel.....Dennis Gira

The Lotus Sūtra.....Lokesh Chandra

Russian Explorations in Central Asia at the Turn of the 20th Century

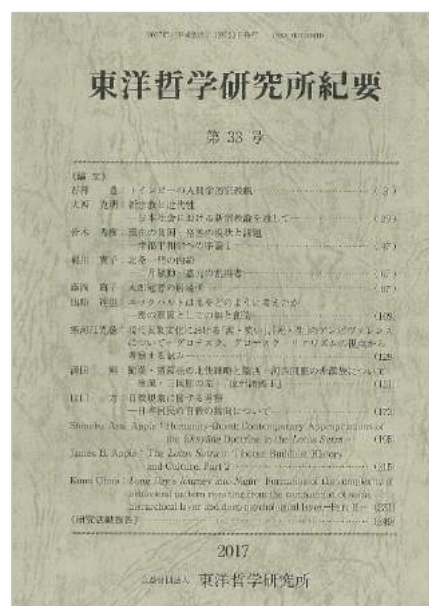
.....Irina F. Popova

Feature 2: Global Challenge Facing Humanity and Buddhism

From the Symposium in conjunction with the 32nd Annual Conference

Buddhism and Peace.....Norani Setabutr

東洋哲学研究所紀要 第33号 (非売品)



《論文》

■トインビーの人間学的宗教観.....石神 豊 (主任研究員)

■新宗教と近代性 ―日本社会における新宗教論を通して―.....大西 克明 (研究員)

■現在の貧困・格差の現状と課題 ―幸福平和学への序論―.....岩木 秀樹 (委嘱研究員)

■北条一門の内紛 ―二月騒動・嘉元の乱再考―.....梶川 貴子 (委嘱研究員)

■太郎冠者の居場所.....藤岡 道子 (委嘱研究員)

■エックハルトは悪をどのように考えたか ―悪の原因としての無と創造―

.....山崎 達也 (研究員)

■現代表象文化における「涙・笑い」、「死・生」のアンビヴァレンスについて

―グロテスク、グロテスク・リアリズムの視点から考察する試み―.....寒河江 光徳 (委嘱研究員)

■蜀漢・諸葛亮の北伐戦略と隴西・河西回廊の非漢族について

―後漢・三国期の羌・「涼州諸國王」.....満田 剛 (委嘱研究員)

■自殺現象に関する考察 ―日本国民の自殺の動向について―.....山口 力 (委嘱研究員)

■Humanity-Quest: Contemporary Appropriations of the *Ekayāna* Doctrine in the *Lotus Sūtra*.....Shinobu Arai Apple (委嘱研究員)

■The *Lotus Sūtra* in Tibetan Buddhist History and Culture, Part 2

.....James B.Apple (海外研究員)

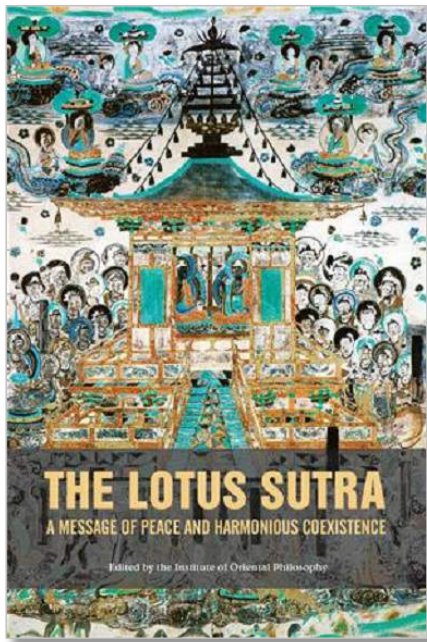
■*Long Day's Journey into Night*—Formation of the complexity of behavioral pattern resulting from the combination of social hierarchical layer and deep psychological layer

―Part II.....Kumi Ohno (委嘱研究員)

《研究活動報告》

Publications

「法華経——平和と共生のメッセージ」展 英語版ガイドブック



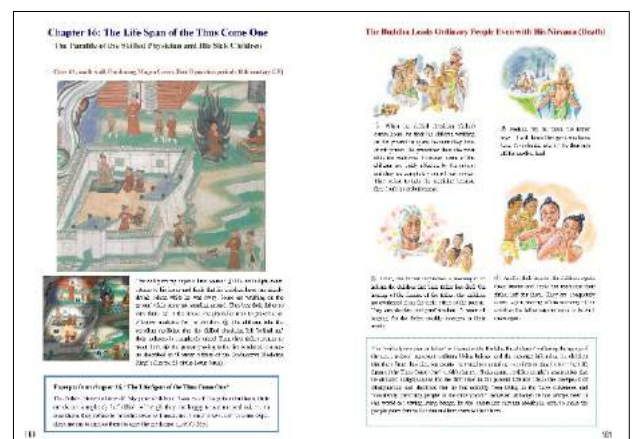
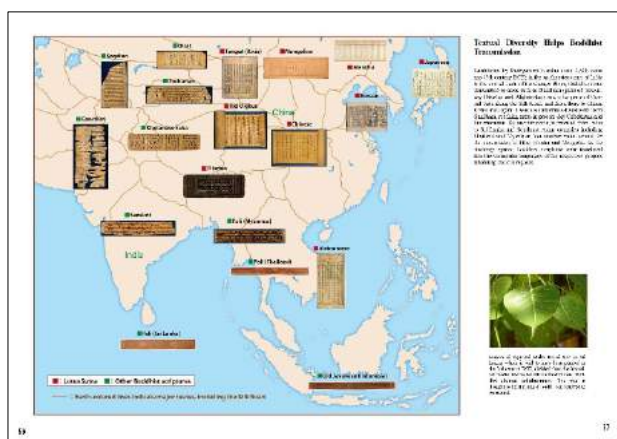
発行：エターナル・ガンジス社（インド）

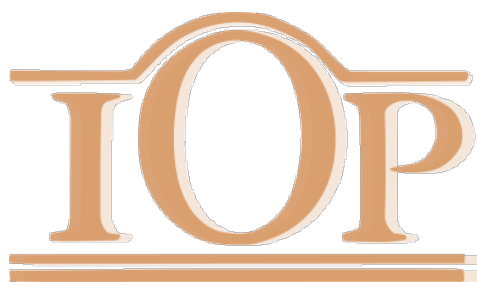
東洋哲学研究所が企画・制作をする「法華経——平和と共生のメッセージ」展を紹介するガイドブック（英語）が、インドのエターナル・ガンジス社から刊行された。

ガイドブックは日本語版の発刊に続き、中国語版（簡体字・繁体字）、韓国語版が発刊されている。英語版は、リニューアルした法華経展の展示パネルや内容に基づいて再編集されたもの。オールカラーで、法華経が多く民族に信奉されてきた軌跡や、法華経の哲理を分かり易く解説。法華経を中心とする仏教の歴史はイラストを交えて概観したほか、法華経を描いた敦煌莫高窟の模写絵などが紹介され、“仏教入門”の一書としても活用できる。

収録されているのは、「法華経伝播の歴史」（第1章）、「多くの言語に翻訳された仏教経典」（第2章）、「写本発見のドラマ・守ったドラマ」（第3章）、「敦煌莫高窟の壁画——描かれた『法華経』の教え」（第4章）、「法華経のメッセージ」（第5章）、「世界の研究機関から寄せられた法華経関連文物」（第6章）、「法華経の言葉」（第7章）の全7章。

本書は、エターナル・ガンジス社のサイト（<https://goo.gl/5pfUHn>）から購入することができる。





公益財団法人東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: iop_info@iop.or.jp

日本語サイト: <http://www.totetu.org/>

英語サイト: <http://www.iop.or.jp/>



公益財団法人東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY